2020.4-6

資産運用状況
Quarterly Report

東京金属事業企業年金基金

用 語 の 解 説

- 修正総合利回り

資産の運用成果を評価する評価基準の一つで、簿価ベースの平均残高利回りである総合利回りの分母に前期末の評価損益および未収収益を加えることによってより時価に近い金額に修正した収益率。

計算式：修正総合利回り(%)＝(実現損益＋未収収益増減＋評価損益増減)／(元本平均残高＋前期末未収収益＋前期末評価損益)×100

- ベンチマーク

運用成果を評価する際に相対比較の対象となる基準指標のことをいい、市場の動きを代表する指標を用います。

国内債券‥‥NOMURA-BPI総合

野村證券金融工学研究センターが算出・公表する日本の公募債券流通市場全体の投資収益指数で、1983年(昭和58年)12月末を100として指数化したもの。

国内株式‥‥TOPIX(配当込み)

東京証券取引所が東証一部に上場する国内株の全銘柄の時価総額を基に算出する株価指数で、1968年(昭和43年)1月4日を100として算出したもの。

外国債券‥‥FTSE世界国債インデックス(除く日本)

ロンドン証券取引所グループのFTSEラッセルが算出・公表する世界主要国の国債の投資収益指数で、1984年(昭和59年)12月末を100として算出したもの。

外国株式‥‥MSCI-KOKUSAI

モルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル社(MSCI Inc)が算出・公表する国際的な株価指数で、日本を除く先進国22ヵ国の上場企業の株価指数で構成。

2020年度第1四半期運用状況

２０２０年度第１四半期の内外株式市場は、４月は新型コロナウイルスの感染拡大を受けた経済指標の悪化などが重石となったものの、主要国における大規模な景気刺激策を背景とする経済活動再開への期待から日経平均株価は６．７５％、ＮＹダウは１１．０８％と大きく反発しました。

５月は、新型コロナウイルス感染拡大第２波への懸念や米中対立再燃などから投資家心理が悪化する局面があったものの、ワクチン開発への期待や経済活動再開などを受け、日経平均株価が８．３４％、ＮＹダウは４．２６％と続伸しました。

６月は、経済活動再開と米国での感染者数の再増加やブラジルなどの新興国での感染者の急拡大といった感染拡大第２波の懸念から一進一退の相場展開となりました。

一方、内外債券市場は、期中狭いレンジ内で一進一退が続き、ほぼ横ばいで推移しました。

このような市場環境の下、当基金の第１四半期の運用実績は新たに組み入れたオルタナティブ資産を含め４．２２％となりました。

	2019年度	2019年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度通期
収益率（%）	（注） 5.24	4.22				4.22
収益額（千円）	96,326	104,529				104,529
期中元本平均残高(千円)	1,838,589	2,474,935				2,474,935
期末運用資産額(千円)	1,927,575	2,893,778				2,893,778

（注）収益率は修正総合利回り。2019年度決算上の時価ベース利回りは5.67%です。

１．２０２０年度 第１四半期運用環境

【 各市場の動き（４月～６月）】

国内債券：４月の10年国債利回りは、中旬にかけて狭いレンジでの推移が続き、その後月末にかけては米原油先物の急落を受けたリスク回避目的の買いが強まったこと等から-0.04%に低下（債券価格は上昇）しました。５月は、上旬は米国やドイツにおいて経済活動の再開が進みリスク回避姿勢が後退したこと等から売りが優勢となり、利回りは上昇（債券価格は下落）しましたが、その後は狭いレンジで一進一退が続き0.00%で終えました。６月は、上旬は世界経済の回復期待の高まりから一時0.05%まで上昇しましたが、月末は国内株式の上昇を受けた売りが優勢となり、0.03%で終えました。

国内株式：４月は、上旬は米国株式の下落を受けて売りが先行したものの、欧米での新型コロナウイルスの感染拡大ペースの鈍化や、100兆円を超える大型経済対策の発表等が好感され上昇に転じ日経平均は2万100円台後半まで回復しました。５月は、ワクチン開発への期待感や緊急事態宣言の全面的な解除を受けた経済活動再開への期待の高まりなどを背景に続伸しました。６月は、上旬は米国株式の上昇や円安の進行から上昇しましたが、中旬にかけては米国での感染再拡大などを受け急反落し、その後は一進一退の値動きとなり、日経平均は2万2200円台後半で終えました。

外国債券：米国10年国債利回りは、４月は0.67%から0.64%、５月は0.64%から0.65%、６月は0.65%から0.66%と、期中を通じほぼ横ばいで推移しました。為替は、ドル/円はほぼ横ばい、ユーロ/円は円安・ユーロ高で推移しました。

外国株式：米国株式は、４月は、上旬に新型コロナウイルス感染者の増加などから売りが先行したものの、その後は欧米での感染拡大ペースの鈍化などを受け急反発し、ＮＹダウは2万4300ドル台まで上昇しました。５月は、上旬は経済活動再開が進む一方で新型コロナウイルス感染の第２波の警戒感から下落しましたが、下旬はワクチン開発への期待の高まりなどを背景に上昇しました。６月は、上旬は雇用統計の予想外の改善を受けて上昇しましたが、その後は新型コロナウイルスの感染拡大による市場心理の悪化から一進一退の値動きが続き、2万5800ドル台前半で終えました。

◇参考指標

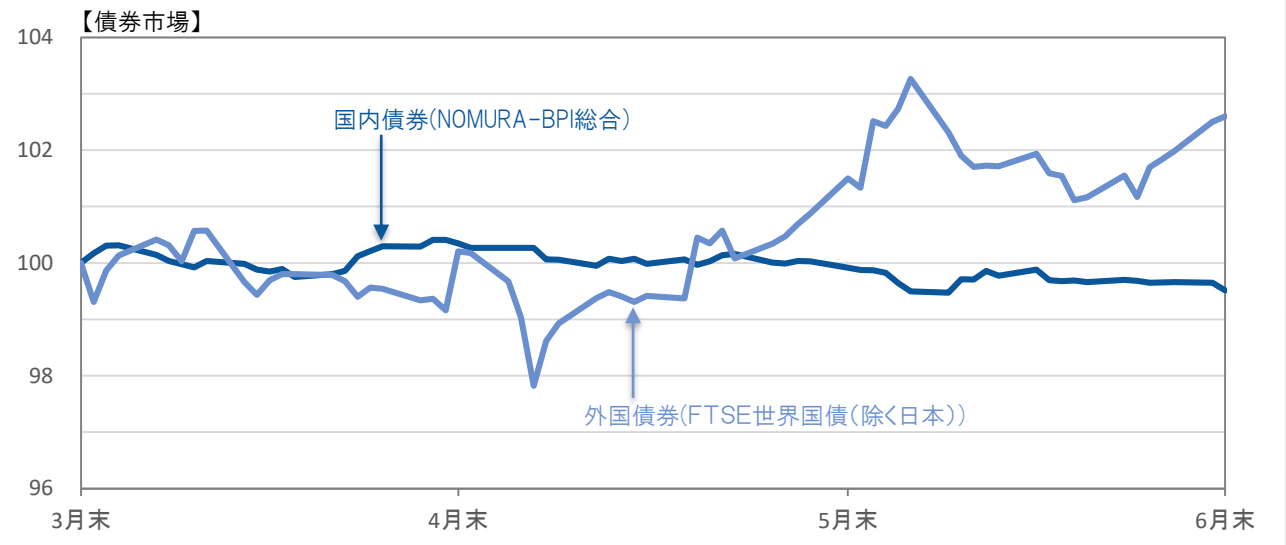
		2020年3月末	2020年4月末	2020年5月末	2020年6月末
国内債券	10年国債利回り　(%)	0.01	-0.04	0.00	0.03
国内株式	TOPIX配当込み　(ﾎﾟｲﾝﾄ)	2,167.60	2,261.88	2,416.04	2,411.45
	日経平均株価　(円)	18,917.01	20,193.69	21,877.89	22,288.14
外国債券	米国10年国債利回り (%)	0.67	0.64	0.65	0.66
	ドイツ10年国債利回り (%)	-0.47	-0.59	-0.45	-0.45
外国株式	NYダウ　(ﾄﾞﾙ)	21,917.16	24,345.72	25,383.11	25,812.88
	ドイツDAX　(ﾎﾟｲﾝﾄ)	9,935.84	10,861.64	11,586.85	12,310.93
為替	ドル／円　(円)	107.96	106.93	107.74	107.89
	ユーロ／円　(円)	118.45	117.13	119.84	121.17

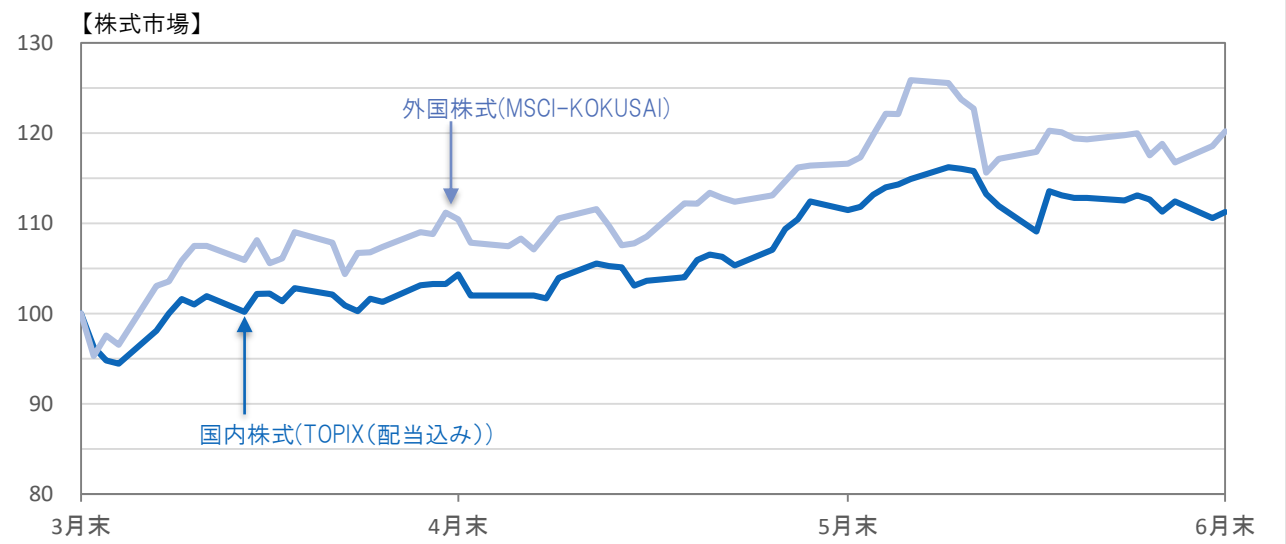
◇ベンチマーク収益率

	2020年4月～6月
国内債券 NOMURA-BPI総合	-0.49 %
国内株式 TOPIX(配当込み)	11.25 %
外国債券 FTSE世界国債(除く日本)	2.60 %
外国株式 MSCI-KOKUSAI	20.20 %

(注)ベンチマーク収益率は、期中のキャッシュフローを考慮しない収益率

市場インデックスの推移（２０２０年度 第１四半期） ３月末＝１００とした市場の動き





2．ファンド別資産クラス別収益率・収益額の状況

（1）パッシブ資産

	2019年度	2020年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度通期
収益率(%)	5.69	4.74				4.74
国内債券	0.40	-0.67				-0.67
ヘッジ外債	6.20	1.21				1.21
国内株式	16.19	12.03				12.03
外国債券	4.61	3.07				3.07
外国株式	19.66	16.86				16.86
短期資産	-0.02	-0.04				-0.04

	2019年度	2020年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度通期
収益額(千円)	93,020	102,271				102,271
国内債券	2,118	-705				-705
ヘッジ外債	10,064	15,114				15,114
国内株式	40,482	18,980				18,980
外国債券	5,746	3,258				3,258
外国株式	34,688	65,689				65,689
短期資産	-77	-66				-66

（2）オルタナティブ資産

	2019年度	2020年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度通期
収益率(%)	1.52	0.70				0.70
みずほ信託※	2.88	0.00				0.00
第一生命	—	0.60				0.60
りそな銀行	-0.08	1.66				1.66

	2019年度	2020年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度通期
収益額(千円)	3,306	2,258				2,258
みずほ信託※	3,388	0				0
第一生命	—	600				600
りそな銀行	-82	1,658				1,658

（参考）オルタナティブ資産のプロダクト
みずほ信託：私募REIT（丸紅プライベートリート）
第一生命　：マルチアセット（第２総合口）
りそな銀行：マルチアセット（総合口Ｎ）

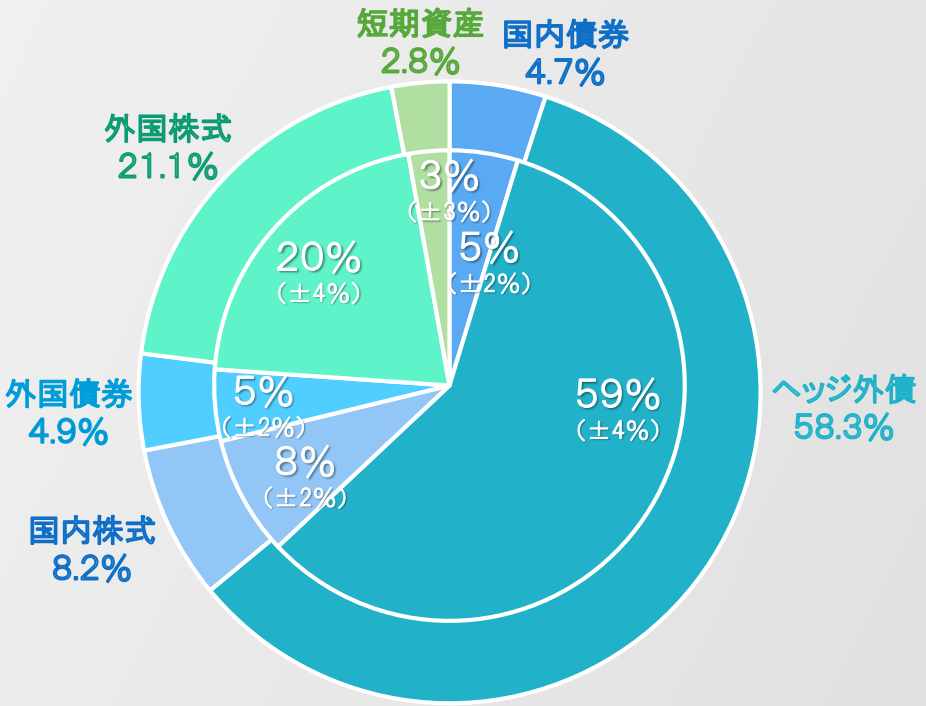
※みずほ信託銀行委託の私募REIT（丸紅プライベートリート）は半期ごと年2回の決算発表月（3月、9月）に基準価格の改定と分配金の確定が行われ、これによる基準価格の増減率と分配金利回りが基金サイドの収益率となります。したがって、3月、9月以外の月に収益率等は計上されません。2020年1月期決算の基準価格増減率は2.88%、分配利回りは2.29%で双方を合わせた総合利回りは5.18%です。当基金の投資開始は本年2月のため1月期決算の基準価格増加に伴う2.88%の収益は2019年度において計上しています。ただし、1月期の分配金は契約時期の関係から支払対象とはならず次回7月期からの受取りとなります。

3．運用資産額・構成割合

（1）パッシブ資産

	資産額（千円）	構成割合	基本ポートフォリオ		乖　離
			中心値	許容乖離幅	
国内債券	121,233	4.7%	5%	±2%	−0.3
ヘッジ外債	1,499,607	58.3%	59%	±4%	−0.7
国内株式	210,368	8.2%	8%	±2%	+0.2
外国債券	125,968	4.9%	5%	±2%	−0.1
外国株式	541,192	21.1%	20%	±4%	+1.1
短期資産	72,283	2.8%	3%	±3%	−0.2
合　計	2,570,650	100.0%	100.0%		—

（注）上記数値は四捨五入のため、各数値の合算は合計値と必ずしも一致しません。



内側：基本ポートフォリオ（カッコ内は乖離許容幅）
外側：2020年6月30日時点

（2）オルタナティブ資産

	資産額（千円）
みずほ信託	120,952
第一生命	100,600
りそな銀行	101,576
合　計	323,128

（3）資産全体

	資産額（千円）
パッシブ資産	2,570,650
オルタナティブ資産	323,128
合　計	2,893,778